

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
450	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
<p>Alcohol consumption as a risk factor for atrial fibrillation: a systematic review and meta-analysis.</p> <p>心房細動(atrial fibrillation; af)のリスク因子としての飲酒: システマティックレビューとメタ分析</p>	
<b>執筆者</b>	
Samokhvalov AV, Irving HM, Rehm J.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Eur J Cardiovasc Prev Rehabil. 2010 Dec;17(6):706-12. Review.	
<b>キーワード</b>	
心房細動、飲酒、システマティックレビュー	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b></p> <p>飲酒は世界中のありふれた病気の大きな危険因子の一つである。しかし、心房細動(atrial fibrillation; AF)はこの病気の一つには数えられていない。この研究の目的は、飲酒と心房細動との用量反応関係を調べて、潜在的な発経路を検討することである。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>システマティックレビューとメタ分析</p> <p><b>結果：</b></p> <p>日々の飲酒量と心房細動には強い用量反応関係があることがわかった。1日に24g、60g、120gの飲酒をする女性は飲酒をしない女性に比べて、それぞれ、相対危険度1.07(95%CI:1.04-1.10)、1.42(95%CI:1.23-1.64)、2.02(95%CI:1.60-2.97)であった。男性に関しては、それぞれ、相対危険度1.08(95%CI:1.04-1.11)、1.44(95%CI:1.23-1.69)、2.09(95%CI:1.52-2.86)であった。カテゴリー分析を行うと、閾値の存在(男性においては1日3回に飲酒、女性においては1日2回の飲酒)を否定することはできなかった。飲酒者の心房細動の発症の病因論的メカニズムがいくつか確認された。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>因果関係を証明する疫学的基準からは、単調な用量反応関係で心房細動の発症と飲酒が関連しているとの結論が適合する。しかし、軽度の飲酒の影響は明らかではない。</p>	